

大会宣言

我が国の労働災害は、関係者のたゆまぬ努力により、長期的には減少傾向にあるものの、今なお、年間五十四万人の労働者が被災し、千人を超える尊い生命が失われている。また、一度に多くの労働者が被災する重大な災害は跡を絶っていない。

その背景には、新たな機械設備・化学物質が導入されるなど、事業場内の危険・有害要因が多様化していることや、これまで現場の安全衛生を支えてきた世代の退職、就業形態の多様化などにより安全衛生のノウハウがうまく伝承されていないことなどがあげられる。

健康面においても、一般定期健康診断の結果、何らかの所見を有する労働者の割合は増加を続け、五割を超える状況となっている。また、仕事や職業生活に関する強い不安、悩み、ストレスを感じる労働者の割合は約六割に上り、精神障害による労災認定件数が高い水準で推移している。

いかなる時代にあつても、「働く人の安全と健康の確保」はすべてに優先する課題である。「労働災害ゼロ」の職場の実現のため、経営トップの強いリーダーシップのもと、管理監督者、安全衛生スタッフ、働く一人ひとりが一丸となって、事業場における安全衛生活動の充実強化に最大の努力を続けていかなければならない。

具体的には、リスクアセスメント、労働安全衛生マネジメントシステムの積極的な導入・定着を図り、化学物質管理や機械の安全対策を充実するとともに、「現場力」向上のため安全衛生教育や危険予知活動などの日常的な安全衛生活動を一層活発化すること、また、心身両面にわたる健康づくり、とりわけメンタルヘルス対策に積極的に取り組むことが必要である。

産業安全運動創始百年を来年に控え、本大会を契機に、全ての関係者が今一度心を新たにし、安全・健康・快適な職場づくりに向けて英知と力を結集し、全力を挙げて邁進することをここに誓う。

右、宣言する。

平成二十二年十月六日

第六十九回全国産業安全衛生大会